

研究課題名	2018-024 入院中の高齢患者における不眠治療とせん妄の関連について
実施責任者	名古屋掖済会病院 精神科 医長 立花昌子
研究の概要	<p>せん妄は、高齢者に多く発症する一種の意識精神障害で、症状が認知症と似ています。</p> <p>不眠症に対する治療薬によって、せん妄が誘発されやすいものとせん妄を抑制するとされているものがあります。</p> <p>当院では 2017 年 4 月 26 日より入院中の高齢患者の方の不眠治療の第一選択薬を、せん妄を抑制するとされるスボレキサントに統一しました。</p> <p>今回、不眠症治療剤を院内で統一したことによる影響を、変更前と後で比較検討して、睡眠薬とせん妄発症、特徴との関連について解析を行います。</p> <p>当院の電子カルテシステムからデータを収集しますが、この内容には氏名・住所といった個人を特定できるような情報は含みません。</p>
実施の期間	2015 年 5 月 1 日 より 2018 年 4 月 30 日 まで
研究対象	上記の期間に、当院の精神科に診察が依頼され、せん妄と診断された入院患者様が対象となります。